

取材のお願い

公益財団法人
古川知足会
古川美術館

永楽家の秘宝

新春特別展

十六代永楽善五郎

近 藤 浩 乎

源氏五十四帖茶陶展

－ 陶 と 書 の 饗 宴 －

2025.1.7 [TUE] – 2.9 [SUN]



十六代永楽善五郎（1917-1998）「源氏五十四帖 九帖「葵」冠香炉 個人蔵

ご案内

平素は格別のご厚情を賜りありがとうございます。
この度、個人が所蔵する陶芸秘蔵品を展覧する新春特別展「十六代永楽善五郎×近藤浩乎 源氏物語五十四帖茶陶展 陶と書の饗宴」を古川美術館にて開催します。千家十色の土風炉士を務める永楽家の十六代当主、永楽善五郎即全が生前に完成させた畢生の大作『源氏物語茶陶』を40年ぶりに一堂に公開します。この作品は、東京、名古屋、パリで巡回展をしたのち、個人のお蔵で封印されていました。永楽善五郎即全は陶芸と文学を融合させた作品群を手掛けてきました。生み出される作品は、永楽家に伝わる伝統技法を用いつつも現代性を反映させた華やかな世界観を放ちます。本展ではその十六代永楽善五郎即全の作品に合わせ、中部書道会を代表する書家・近藤浩乎の本展の爲に制作した最新作『源氏物語』も合わせて展示します。それぞれの作家がおりなす平安王朝の世界をお楽しみ頂けます。是非とも貴媒体にてご紹介いただきたく、お願い申し上げます。



源氏物語 五十四帖茶陶とは

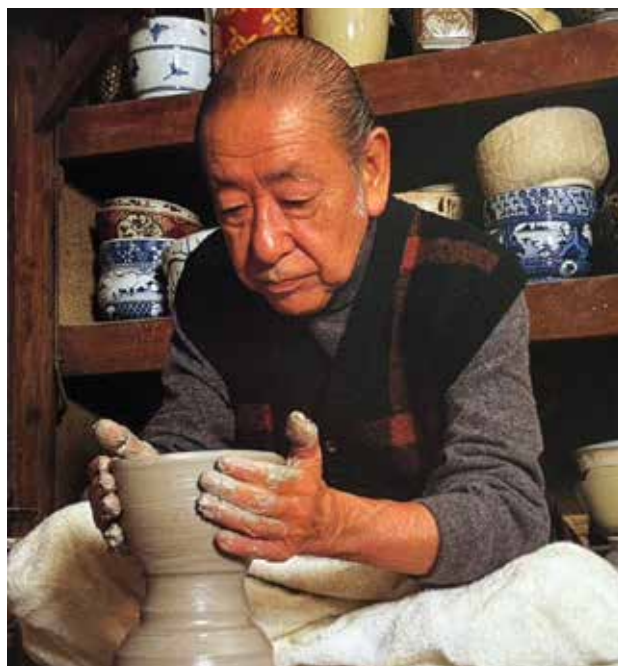


源氏物語五十四帖茶陶とは、源氏物語をモチーフとした陶芸作品で、1958年に十六代永楽善五郎即全の手によって制作されたものです。永楽善五郎即全は、国文学者で今日と大学名誉教授の故吉澤義則博士から1952年に源氏物語を三年間の講義を通じて教わりました。それが契機となり、この源氏物語シリーズが始まったのです。王朝文学の最高峰である源氏物語を陶芸で表現する、古き心を表す斬新なアプローチは、鑑賞者を驚かせ、さらに十六代永楽善五郎の代表作となりました。
源氏物語の壮大な物語絵巻の五十四点の陶芸作品は単なる鑑賞を目的とした作品ではなく、茶道具としての用と取り合わせて工夫の可能な、茶の湯の知恵と美的感覚が結集された作品として完成しました。

十六代永楽善五郎即全

(1917-1998)

1917年、十五代正全の長男として生まれ、幼少期より永楽家を継承するものとしての教育を受ける。小学校を卒業したのち、京都私立美術工芸学校に入学。それは伝統の家柄を継承するものとしては必然の道でした。そこで工芸意匠を学び、作陶家への準備を行っている最中、1932年に父が急逝。そのため通っていた美術工芸学校を途中でやめ、16歳という若さで家督を継ぎ十六代永楽善五郎を襲名します。1943年には戦時下の中で伝統的な工芸技術を持続する人々に資材、工芸材料を提供するために制定された工芸技術保存資格者に認定されました。戦後、物資の乏しい中で作陶を再開した善五郎は茶道具の復興と共に琳派様式の色絵作品、和風の意匠と匠に調和した交趾釉の作品、優美な金襴手の作品と、永楽家の名に恥じない作品群を発表し、現代に生きる茶陶を強く印象付けました。1992年、京都府文化賞特別功労賞を受賞しました。1998年、長男・紘一に家督を譲って隠居し、即全と号しました。



第一帖「桐壺」

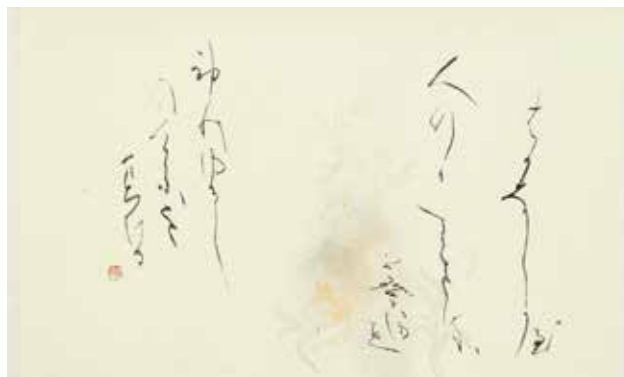
源氏物語五十四帖の作品は、まず絵柄を考えることに苦勞したと作者は語ります。一帖から順序よく作られたのではなく、善五郎測る線がイメージしやすいものから作られました。中でも一番苦勞したのが、一帖の「桐壺」です。源氏物語の最初の源氏が生まれるシーンを豪華に飾ろうと金襴手の技法が採用されました。さらに水指の蓋にも作者の意識は行き届き、これまでにはない形状にしようと試みたものの、やはりやきもの。ピタッとはあわず苦心しました。源氏とその母の桐壺更衣にちなみ、華やかな若竹と桐の意匠を施した美しい作品です。

近藤浩乎

近藤浩乎は、宮本竹逕・黒野清字氏に師事し、書道の中でも日本独自の文化である「かな」書道を学びました。日展入選21回、特選2回受賞、審査員を2回務め、公益社団法人中部日本書道会常任顧問等多くの要職を務めるなど、輝かしい経歴を持つ書家です。また、各所で書道教室を持ち、後進の指導・育成にも力を注ぐなど、本県芸術文化の振興と向上に大きく貢献しています。

近藤浩乎「源氏物語 葵」

本展のメインビジュアルでもある葵の帖を書にて表現したもの。かなの連なる流れを自在に変化し空間を彩る、かな書。そこにかなの持つ造形美が融合し王朝の優美な世界を表現しています。また近藤は物語の内容に合わせ料紙を選択し、空間としてのかな書の美しさも表現しています。





王朝の雰囲気漂う 「葵」冠香炉

四月の加茂祭の前行事、新斎院の御契の御儀に、勅諭により源氏の大將が特に勅使として行列に供奉されます。この盛儀に因んだのがこの作品です。冠形の伏香炉で色絵で菊唐草紋と葵葉が散らされており、きらびやかな世界が演出されています。源氏物語を象徴するような形状と装飾の作品を広報にてどうぞお使いください。

十六代永楽善五郎即全「源氏五十四帖 九帖「葵」冠香炉

展覧会情報

名 称 新春特別展「十六代永楽善五郎 近藤浩乎 源氏五十四帖茶陶展－陶と書の饗宴」

日 時 2025年1月7日（火）～2月9日（日）10：00-17：00

休館日 月曜日（但し1月13日（月・祝）は開館し、翌平日に休館）

主 催 公益財団法人 古川知足会

後 援 愛知県教育委員会 名古屋市教育委員会
公益社団法人 日本書芸院 公益社団法人 中部日本書道会
中日新聞社 CBC テレビ 東海テレビ、スターキャット株式会社

入館料 ①古川美術館と分館爲三郎記念館の共通券 一般：1,200円 高大生：500円

②美術館単館券 900円

③記念館単館券 600円

※①～③にかかわらず中学生以下は無料 ※②、③は年齢区分なし

お問い合わせ

公益財団法人 古川知足会 古川美術館分館爲三郎記念館 学芸課 052-763-1991

名古屋市千種区池下町 2-50

担当学芸員：林 奈美恵 mail: n_hayashi@furukawa-museum.or.jp

問い合わせ窓口：山内綾子 mail: a_yamauchi@furukawa-museum.or.jp

爲三郎記念館展覧会 上記期間中は以下の展示内容です

爲三郎記念館特別企画 玄之会選抜展《かなの美》 2025/1/7-1/26

古川美術館プロジェクト「メイゲイのコウゲイ」 2025/1/28-2/9